

成人おめでとうございます。

祝昭和57年成人式



▲成人式会場で成人者全員の記念撮影



発行所
西原町役場
〒903-01
西原町字嘉手苅112番地
電話 (09894) 5-4533
印刷センター 大 永

町の世帯・人口	
(昭和56月12月末現在)	
世帯数	4,196世帯
人口	17,037人
男	8,713人
女	8,324人
11月の人口移動	
出生	26人
死亡	7人
転入	132人
転出	98人
婚姻	18件
離婚	3件

町成人式 二百四十二名 社会の仲間入り

本町の成人式は、一月十五日午後二時から中央公民館で成人者二百四十名と来賓五十名を集めて和やかに行われた。ちなみにことし町内で成人を迎えられた方々は、男性百二十九名、女性百十三名計二百四十二名だから例年に比べて出席率も多いような感じがした。また、成人者の門出を祝いました。

その中で式辞に立った宮平町長は、「みなさんは、いまや法律的にも国家の一員としての貴重な権利と義務を与えられました。今後幾多の社会的経験と豊かな教養と高い知性を積み重ね、豊かな創造力とバイタリティーでたくましく成長

されんことを望みます。無限の可能性を信じ地域社会発展の原動力となつて下さい。」と激励した。その後、成人者を代表して字翁長五六八一の木口健さん(沖国大・法学科二年次)と字我謝二四一四二の玉那覇律子さん(沖縄キリスト短大・英文科二年次)から謝辞が述べられた。木口さんは、「私たちは、ただいまの来賓の方々からのご教訓をしっかりと胸にきき、先輩各位のご指導のもとに社会人としての権利を有効に行使すると共に、責任と義務を自覚し、社会の発展のために役立ちたいと思います。毎日を着実に一歩一歩踏みしめてこの人生を開拓していきたいと思ひます。」と述べた。また、玉那覇さんは「西原に生まれ育ち二十二年、さとうきびのようにすくすく育ち、かみしめればかみしめるほど味わい深い女性になれ

るのではと期待に胸をふくらませております。若さといういいしさを忘れず、何事にも積極的に取り組み、大人への一歩を大切に踏みしめていきたいと思ひます。」と述べた。

自分のことは自分で責任を持て

琉大数学科二年 大城佳代子



私の脳裏を二十年の年月が、駆け巡りました。私は幼い頃から恵まれた環境に育ってきたと思います。両親、家族の下で、自分がこれだ、と思つたことは何でもさせてもらいました。勉強であれ、スポーツであれ遊びであれ、でも決して、甘えて育

てられたわけではありません。私は物心ついた頃から、温室に咲く花だけにはなるまいと自分自身に言い聞かせて、ここまで努力してきましたつもりです。自分のことは自分で責任を持て、私の親は無言のうちに、この二十年間通して、教えてくれたのです。私がこまめに成長してきたのは偏に、両親家族の愛情であり、きびしさであり、且つ恩師や友人達の暖かいまなざしだと思います。

成人になって

沖国大法学科二年 神谷勝雄



「青年よ二十一世紀の広布の山を登れ」とある著名な人がいった。まさにその通りだと自分は思った。五年先、十年先、二十年先の社会のことを考えて生きていきたいのです。

自分達同年代の人には、若さがあり、情熱があり、理性がある。そして実践力という、かけがえない無限の財宝があるのです。今日の時代を作ってきた人々は、なりたいたい。(幸地九九六一「在住」)

町基本構想決まる

本町の長年の懸案事項であった基本構想は、昭和五十五年五月から町企画課を中心にその策定作業を進めていたが、今年一月十九日



▲1月19日の町議会臨時会で基本構想、決議される。

に町議会の決議を経て決まった。昨月七月十三日に発足した町総合計画審議会(新垣良康会長、他委員十一名)が七月十六日に町長から諮問を受けて基本構想に関する調査審議をした結果同年十一月二十四日に町長に対し答申した。

これに基づき町は、十二月の町議会定例会に基本構想策定についての議案を提出し、議決を求めたが、重要な案件であるだけに議会側も慎重に検討したいということで、基本構想審査特別委員会(委員長正吉委員、他委員十一名)に付

託され閉会中の継続審査となった。十二月二十三日から今年一月十三日まで特別委員会の議案審査が行

町の基本構想 文教のまち西原をめざす

本町の将来像

戦前戦後農業地域として発展してきた本町は、県都那覇市、浦添市の東部に隣接し、さらに宜野湾市、中城村、与那原町、南風原町に囲まれそのような地理的条件、周辺都市地域の影響力等もあつて最近人口増加、地域開発等が活発化し都市化の傾向が顕著となつて

いる。とりわけ、本町北部に立地した国立琉球大学の進出は中学学園都市づくりの核となるものであり、

本町をはじめ周辺地域のまちづくりに大きな影響力をもち期待が大きい。そこで、本町では、そのような地域の条件も十分認識しその新しいいぶきを積極的に受け入れるとともにまちづくりの基本は、情操豊かな明日をになう人材の育成なくしてはありえない。という見地から緑豊かな自然環境を生かすつつ教育、文化施設を積極的に整備、促進するとともにそれ等の活動を活発にして青少年等の人材を育成し、道路、排水、都市施設

基本目標

等の整備による基礎的条件、都市機能を高め、住環境、社会福祉の充実、産業の振興を図ることにより町民が安心して生活ができ、活力にみちた豊かな人間性と創造性を発揮しうる「文教のまち西原」の建設のためつぎの基本目標を設定する。

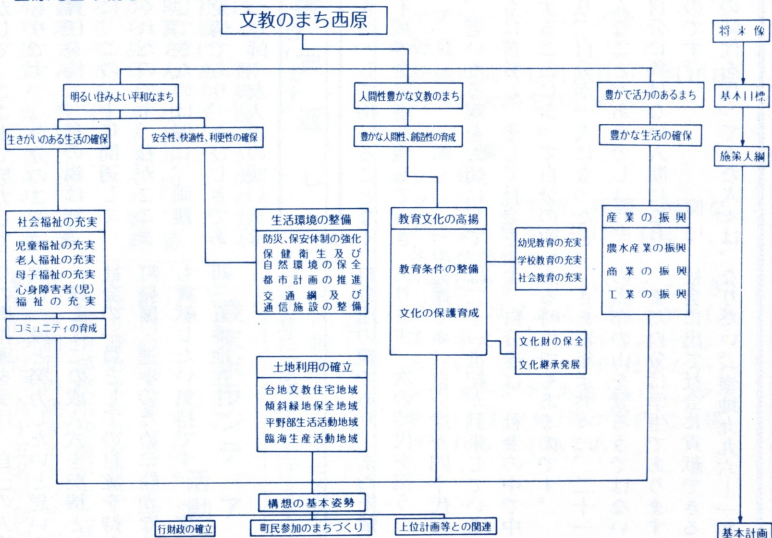
(1) 人間性豊かな文教のまち

人間性豊かな文教のまちの建設のためには、幼児から成人に至るまでのすべての町民がいつでも気軽に教養を身につけられるような諸種の教育文化施設を整備し、本県の文教中核都市としての位置づけるとともに町民相互の連帯を深め新しい文化を築き、他方では、有形無形の伝統文化の保護育成を図り、教育文化の

(2) 明るい住みよい平和なまち

明るい住みよい平和なまちを築くためには、災害や病気から町民を守り、自然と人間の調和

西原町基本構想フローチャート



のとれた秩序ある開発を進めることが肝要である。さらに生活文化の多様化、高度化に伴う生活環境を整備し、生活の安定と生活水準の向上に

(3) 豊かで活力のあるまち

経済活動は、人間生活に欠くことのない最も基礎的な要件であり、また町行政にとって

町議会だより

十二月定例会

十二月二十一日から十二月二十三日にかけて三日間の会期で昭和五十六年第八回町議会定例会が開かれた。

提出された条件は、議案四件、報告一件であり、議案三件は原案可決され、西原町基本構想の議決、算額を三五億四、〇八一万六千円とした。

想審査特別委員会へ付託され閉会中の継続審査とした。昭和五十六年度西原町国民健康保険特別会計補正予算について(原

間が行われた。
※報告第一〇号

専決処分分の報告について

※議案第一六〇号

昭和五十六年度西原町一般会計補

正予算について(原案可決)

歳入歳出にそれぞれ一億九、六

六万二千元を追加し、同補正予

算額を三五億四、〇八一万六千

円とした。

※議案第一六一号

昭和五十六年度西原町国民健康保

険特別会計補正予算について(原

案可決

歳入歳出にそれぞれ九〇九万八千円を追加し、同補正予算総額を四億四、二七九万四千円とした。

※議案第一六二号

西原町基本構想の議決について

(西原町基本構想審査特別委員会

へ付託)

※議案第一六三号

工事請負契約締結について(原

案可決)

工事名、内間都市下水路工事

契約額 三、六五〇万円

一月臨時会

一月十九日に昭和五十七年第一回臨時会が開かれた。

提出された案件は、議案十一件、の給与及び旅費に関する条例の

本構想の議決についてのみ修正可

決され残りの議案は全て原案可決、陳情は建設産業委員会へ付託され

た。

※議案第一六二号

西原町基本構想の議決について

(修正可決)

文章表現で若干妥当を欠いてい

る部分があるので、その部分を修

正した。

※議案第一六四号

西原町特別職の職員で非常勤の

ものの報酬及び費用弁償に関する

条例の一部を改正する条例につ

て(原案可決)

※議案第一六五号

西原町特別職の職員で常勤のも

の給与及び旅費に関する条例の

案可決

※議案第一六六号

西原町教育長の給与、旅費、勤

務時間その他の勤務条件に関する

条例の一部を改正する条例につ

て(原案可決)

※議案第一六七号

西原町職員給与に関する条例の

一部を改正する条例について(原

案可決)

※議案第一七三号

西原町議会の議員の報酬及び費

用弁償等に関する条例の一部を改

正する条例について(原案可決)

※議案第一六九号

昭和五十六年度西原町国民健康保

険特別会計補正予算について(原

案可決

昭和五十六年度西原町水道事業会計補正予算について(原案可決)

※議案第一六八号

昭和五十六年度西原町一般会計補

正予算について(原案可決)

歳入歳出にそれぞれ四、七四一

万円を追加し、同補正予算総額を

三五億八、八二二万六千円とした

※議案第一七一号

土地取得について(原案可決)

西原運動公園用地として二五、

三七二平方メートル取得する。

※議案第一七二号

工事請負契約締結について(原

案可決)

工事名、内間公園工事

契約額 三、五〇〇万円

訂正おわび

広報にしはら第一二四号五面、町電話お話大会の高学年の部の最優秀者の根路銘陽子(坂田小四年・宿題のいいわけ)は、金城美智子(西原小五年・第)の誤りでし

民話調査、二月に行う

来る二月十六日から十八日まで

の三日間、各字公民館において民話調査が行われます。今回の調査は第二次民話調査として、一区、二区、三区、四区、六区、七区、八区、十六区の地域と嵯原、伊保の浜を調査する予定です。

今回の調査をもって、西原町内のすべての地域の民話調査を完了します。

前回（五十六年六月に実施）同様、町と沖国大口承文芸研究会との合同で行います。沖国大の遠藤庄治教授を団長として、総三十名の調査団が聞き取りにあたります。

第二次民話調査日程
二月十六日、津花波、小橋川、内間、小那覇、嘉手苅、掛保久、崎原、伊保の浜
二月十七日、幸地、棚原、徳佐田

森川、千原、上原、翁長、小波津、呉屋
二月十八日、二十日 補足調査
以上の日程で各字の公民館において、午前九時から十二時まで調査員がうかがい調査いたします。町民のみなさんのご協力をお願いいたします。



▶昨年六月に行われた民話調査のもよう（伊保公民館で）

町民民税の申告はじまる

町・県民税の申告と納税につきましては、毎年ご協力下さいまして、厚くお礼申し上げます。五十七年度も申告時期がまいりましたので、三月十五日まで各字公民館で申告して下さい。尚、申告についてのチラシを各世帯に配布してありますので参考にしてください。それでもわからないことがありましたら町税務課（電話五〇四七二九）にお問い合せ下さい。

みなさんの戦時・戦後の体験記をお寄せ下さい

来年度「町史戦争編」の発刊を予定しています。戦時中の忘れもののできない体験をお持ちの方々、ぜひ体験記をお寄せ下さい。沖縄戦だけではなく、本土や海外で戦争体験をされた方々もぜひお寄せ下さい。また、戦時中、軍隊における将兵、軍属としての体験、あるいはそこで見聞した戦争の実態等についてもご寄稿ください。体験記を自身で書きにくい方は町史編さん事務局までご連絡下さい。おたずねして聞き書きをしたいと思います。

募集要項
一、募集の対象
イ、戦前の西原町民
ロ、終戦時から現在までに西原町に在住したことのある人
ハ、現在の西原町民
ニ、体験記録のテーマ
沖縄戦、疎開、本土・海外での戦争体験、収容所生活等戦争に関するものであればテーマは自由です。

戦時中あるいは米軍占領下の公文書、書簡、メモ、日記、写真、資料、および物品等お持ちでしたらぜひ見せて下さい。

三、原稿の枚数
四〇〇字詰の原稿用紙五二〇枚程度。なお、原稿用紙は町史編さん事務局で準備しています。
四、原稿締切り
毎月末日を締切り日とします。昭和五十七年十二月末日を最終締切り日とします。なお、町史戦争編の刊行は五十八年三月の予定品を差し上げます。
五、原稿には、住所、氏名、年令をお書きの上、左記の町史事務局までお送り下さい。
七、聞き書きをしてもらいたい方も左記までご連絡ください。
西原町字嘉手苅一丁目二番地
企画課内町史編さん事務局
電話 五〇四七三三

学徒隊の一員として

宇翁長四七四・城間 期一（県立二中四年生）

今回、戦争体験記の個人投稿第一号の城間期一氏（北中城小学校校長）のものを一部ご紹介致します。体験記は、「戦争体制の中で」「鉄血勤皇隊第一中学校隊の編成」「島尻の戦野をさまよう」の三本柱からなり、四百字詰原稿の五十三ページにおよび当時の状況を詳細に書きあげたものである。その中から「島尻の戦野をさまよう」の一部をご紹介します。

◎島の果てで

壕を何ヶ所か転々とさまよい歩いたあげく、とうとう島の最南端の近くまで来てしまっていた。行動を共にするのは私たち勤皇隊三人を含めて八人、山の中で壕を見つけたし、そこへもぐりこんだ。この壕はT字型になっており、奥の方で左右にわかれていた。その頃からは、艦砲射撃が聞こえ

見出して国頭方面へ行くことになった。ということになった。しかし、八人の中、私と金本という上等兵（前述した朝鮮出身者）の二人は重傷を負っているということではなかった。私は左足の負傷で歩行困難をきたしており、金本上等兵は腹部を負傷していた。置き去りにされるかと思つて必死になつて「軍曹殿、私も連れて行って下さい」と頼みこんだが聞き入れられなかった。勤皇隊の大山、伊佐両君も「私たち勤皇隊員三人は死ぬも生きるも一緒です。お願いします。城間も連れて行って下さい。」と頼みこんだが軍曹は「足手まといになって斬り込みは失敗する。だめだつ」と一喝されただけであつた。やむなく、大山、伊佐両君は、「城間、お前は負傷しているんだ。きつと迎えるからここで待つておけ。」と私を励ましながらかつと一歩を踏み出したのである。夜の十一時頃、F軍曹を先頭に六人が次々に壕の外へ出ていった。大山と伊佐両君に「気をつけて行けよ。」と小声で別れのあいさつを

し、壕の入口で見送つたのである。五分も経つたかどうか。一行が行つたと思はれる方向で照明弾が数発あり、そして、激しい機関銃の音が聞こえてきた。あつ、斬り込みは失敗か。大山、伊佐、無事でいふよ」と心の中で祈るだけであつた。再び照明弾があがり、機関銃の音が響いた。それが数回もくり返された。このくり返しが三〇分程続けたあと、あたりは静かになつていった。

再び壕の中へ引き返した。私と金本上等兵二人だけである。「上等兵殿、どうしますか。」「どうもこうもない。なるようにしかならないのではないか。夜が明けたら二人で国頭へ突破しよう。」

国頭突破ということで私は背負い袋に米を二升ぐらいと手榴弾二箇所をつめ込んだ。それを見た金本上等兵は、とがめるような口調できいた。「その手榴弾をどうするのだ。」「はい。一箇所は敵と遭遇した場合は、あとの一箇所はいざという時の自決用です。」

「馬鹿もん！」ものすごい剣幕でどなられた。そして次はおだやかに「おい、城間、俺たちはもう十分すぎる程お国のために戦つてきたんだ。戦争はもう終わったんだ。命を粗末にするのではない。死ぬなんて考えるな。さあ手榴弾をよこせ。」と手榴弾を取りあげられた。金本上等兵はなお言葉を続けた。「俺は今日限り日本人であることをやめる。俺は今まで朝鮮出身であるということだけでべつ視され差別されてきた。その苦しみは君にはわからんだろう。したがって今日以降俺は金本の名を捨てる。俺の名前は金だ。だから今後は金本上等兵ではなく、金さん」と呼ぶんだ。

◎生命永らえて

悪夢のような戦が終わった。俺は生き抜いたんだと絶叫したくなるような気持ちと、家族はどうなつたんだろうかという不安が交錯しながら私の戦後はじまり、同時に新しい苦難がはじまるのである。時が経つにつれて、家族の安否が次々と私の耳に入ってきた。目の前が真暗になった。絶望感だけが残つた。

防衛隊へ行った父は戦死。幼ない弟妹たち五人と祖母をひき連れて島尻をさまよい歩いた母は重傷をうけて米軍の野戦病院で死亡。通信隊へひっぱられた当時一・二年生の弟も戦死。祖母と妹二人は島尻で死亡。生き残つた第二人と妹一人は孤児院に収容。十人家族のうち、父母を含めて六人が死亡。そして、私を頭に兄弟四人が生存……。

小橋川部落・共同作業で

通学路・生活路を整備

小橋川部落では、由緒ある石畳（通称石ビラ）が二十年前から地すべり等でいたみその整備が急を要していたが、部落常会にはか



▲共同奉仕作業で整備された小橋川の通学路

になり、一月十七日、一日がかりで部落民約五十名が出て作業に取り組んだ。

この道は、部落民の生活路であるほか、西原台団地の児童が西原東小学校に通う道であり、地理的にも良い位置にあることから部落民すべてでとかかわりを持ってきた重要な道である。長さ約三十メートル、幅員三・五メートル、部落の大通りから山手に向って約二十メートルはゆるやかな勾配だが、残りの約十メートルが急勾配である。

作業は、女性に草刈、男性は、ブロック塀積み、コンクリートの流し込み、石ジャリの散布などで汗を流した。資材は町が負担。

埋没不発弾発掘される

本町ではじめて埋没不発弾の発掘作業がユニボ一台、作業員五名を動員して十二月二十一日、二十二日の両日、字幸地八八八番地（雑種地）で行われ砲弾三発、迫撃砲弾三発、機関銃弾二発が見つかった。

この作業は、終戦直後、艦砲穴に大量の不発弾を埋めたという部落民の記憶に基づいて県が行ったものである。県消防課職員が、十畳四方、深さ約三メートルの穴を掘るのも磁気探査器を使って慎重に行

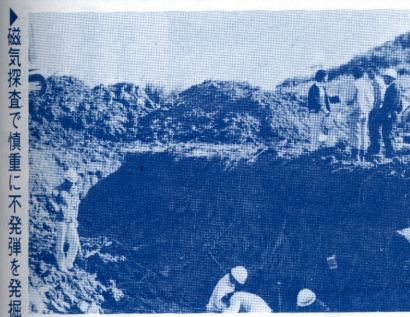


▶第一回町PTA研究大会

第一回町PTA研究大会終わる

手を取り合って強めよう家庭、学校、地域のきずな等をテーマに町PTA連絡協議会（新川雅雅会長）主催の第一回町PTA研究大会が、一月十日午後二時半から中央公民館で関係者約百名を集めた。

新川会長あいさつに次いで宮平町長、親泊議長、小川教育長から激励のあいさつを受けた。その後町内の小中高校五校の代表から事例発表とそれに対する質疑が行われ、喫煙、服装の乱れ、学習はなれなどの問題がクローズアップされた。



▶磁気探査で慎重に不発弾を発掘

第三回町マラソン大会行われる

マラソンを通して町民のスポーツ振興と体力増進を図ろうと町体協（平安恒政会長）立催の第三回町新春マラソン大会が一月十七日午前九時から西原中学校グラウンドで開かれた。

三時（中学男子、婦人）、五時（壮年）、十時（一般男子、三十代男子、高校男子）の三コースで健脚が競われたが、総数二十一名が参加し十時に完走一発で一斉にス

タートして行われた。それぞれ沖銀西原支店前（三時）、西原グリーングolf前（五時）、中城津覇小学校前（十時）の折返しコース。参加選手全員が最後までマイペースを崩さず、自己のベストを尽して頑張っていた。

消防出初式

訓練成果を披露

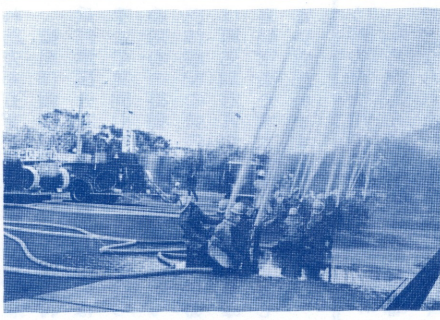
一月六日午後二時、東部消防組合の出初式が、同組合本部で行われた。式典では、通常点検、車両点検、管理者祝辞（栗国長行与那原町長）、来賓祝辞、消防長あいさつなどが行われた。

式典終了後、消防団員による大型ポンプ操法、消防職員による二連はしご車操法、一斉放水などが一般に披露された。また、油火災を想定しての消火栓の使用法の実習が、消防団員や来賓に対して行われ好評だった。

年始会終わる

昭和五十七年の年始会が、一月四日午後四時から中央公民館で町民並びに町内に職場をもつ方々の親睦を深めようと開かれ賑わった。参加者は約三百五十名。

席上、宮平町長、親泊議長、仲宗根教育委員長などからあいさつを受けた。その後、立食パーティー形式で自由に立ち巡ってそれぞれに懇談がなされ夜遅くまで続いた。



▶東部消防本部で行われた消防出初式のもよう



▶年始会、にぎやかな懇談が交わされる。

町歩こう歩こう大会のお知らせ

本町では、町歩こう歩こう大会が次の通り行われます。町民のみなさん多数のご参加をお待ちしております。

日時 二月十四日午前九時受付
場所 西原東小学校
尚、詳しいことは、町教育委員会（電話五一三六五五）へお問い合わせ下さい。

第80期青年隊員募集

応募資格

- (1)義務教育を終了した満二十五才未満の独身男子
- (2)心身健全で共同生活を守りうる者

訓練期間

昭和57年4月2日～9月17日
募集期間
昭和56年12月15日～昭和57年2月24日

選考日時及び場所

昭和57年3月4日午後1時
国際協力事業団
尚、詳しいことは、東村字平良三八〇一番地、沖縄産業開発青年協会（電話〇九八〇四三二一八）又は町産業課（電話五一五〇一三）にお問い合わせ下さい

香典返し

このほど、次の方々から町社協へ香典返しがありました。

▽新垣常夫さん（字我謝二四一三九番地）から故母・キクさんの香典返しとして十五万円。

▽城間次郎さん（字棚原七八五番地）から故娘・成子さんの香典返しとして五万円。

この紙面をかりて二名の方々がご厚意に感謝申し上げます。

寄付お礼

このほど、次の方々から西原東小学校に「学校施設の拡充のため役立て下さい。」と寄付がありました。

▽みつい化成工業合資会社（字幸地一〇八一番地、代表者翁長孝明）から十五万円。

▽上里金物店（字小橋川一六四番地、代表者上里光輝）から三万円。

この紙面をかりて二名の方々がご厚意に感謝申し上げます。